

科目名	社会生活行為学	担当教員	山田 恭平 佐々木 努 仙石 泰仁 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------	------	---

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR32ABCE	②、③、④					

科目概要	作業療法の介入にあたっては、身の回りの日常生活動作に加えて、対象者の役割に関わる日常生活関連活動への支援が重要である。そこで本科目では、ICF分類における活動・参加に焦点を当て、地域社会で生活するために必要な家事活動、車の運転、職業関連活動、就学活動等を支援するために必要な知識、制度および他職種連携等について学習する。
学習目標	① ICFの枠組みを踏まえた上で、社会生活活動に対する支援の考え方を理解する。 ② 家事・就学・職業関連活動の支援について理解する。 ③ 自動車運転の支援について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	総論	ICFおよび社会生活活動について 生活行為について	ICFおよび社会生活活動について理解する。	仙石
2	生活関連活動	主な対象疾患やその特徴 家事活動などの評価および介入方法について	対象疾患の特徴を理解する。 評価の方法、支援の考え方を理解する。	仙石
3	就学	主な対象疾患やその特徴 法制度について 評価および介入方法について	対象疾患および関連する法制度について理解する。 評価の方法、支援の考え方を理解する。	仙石
4	職業関連活動	主な対象疾患やその特徴 法制度について 評価および介入方法について	対象疾患および関連する法制度について理解する。 評価の方法、支援の考え方を理解する。	仙石
5	自動車運転①	若年・高齢者ドライバーの特徴 法制度について	若年・高齢者ドライバーの特徴を理解する。 法制度について理解する。	佐々木
6	自動車運転②	若年・高齢者ドライバーの特徴 評価および介入方法について	運転評価の方法、支援の考え方を理解する。	佐々木
7	自動車運転③	脳卒中、高次脳機能障害者の特徴 社会資源、法制度について	対象疾患の特徴を理解する。 社会資源、法制度について理解する。	山田
8	自動車運転④	脳卒中、高次脳機能障害者の特徴 評価および介入方法について	運転評価の方法、支援の考え方を理解する。	山田
評価方法		筆記試験（100%）		
課題に対するフィードバック		講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。		
教科図書		特に指定しない。		
参考図書		（一社）日本作業療法士協会・編『生活行為向上マネジメント 改訂第2版』、2016年 鴨下賢一、他・著『発達気がなる子への生活動作の教え方-苦手が「できる」にかわる！』中央法規、2013年 三村将・監『医療従事者のための自動車運転評価の手引き』新興医学出版社、2011年		
学習の準備		1.（予習）次回学習する作業療法専門領域の科目を復習しておくこと（60分） 2.（予習）ICFについては理解を深めておくこと（30分） 3.事後学習として、講義内容についてを復習すること（90分）		

オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を 附した教員の 実務経 験	